※この資料はオリエンテーション用として私的に使用してください。ファイルの再頒布・再利用はできません。

専修オリエンテーション資料

# ドイツ文学研究室案内

目　　次

§1　研究室（専修）の概要

何が勉強できるか（卒論テーマ）
学生の研究活動
卒業後の進路
研究室の構成員（2021 年 4 月現在）

§2　ドイツ語とドイツ語圏の国々

■ドイツ語
■ドイツ語圏の国々
・オーストリア共和国
・スイス連邦
・ルクセンブルク大公国
・ドイツ連邦共和国
■私たちとドイツ

§3　ドイツ文学専修で勉強できること

■ドイツ語を学び、研究する
・ＡＢＣからはじめる
・専門課程での多様なドイツ語
・ドイツ語の研究
・資格取得
・語学研修
■ドイツ文化を研究する
・文学
・映画
・芸術と思想
・社会と歴史
■補足（日本語文献の活用）

# §1　研究室（専修）の概要

ドイツ文学研究室は、大学院文学研究科広域文化学専攻「ドイツ語学ドイツ文学専攻分野」に所属する教員と、文学部人文社会学科「ドイツ文学専修」の学部生、および上記専攻分野の大学院生によって構成される教育・研究上のセクションです。

物理的な意味での「研究室」は、文学部棟（Ｆ棟）の８０３号室です。

2020 年 4 月現在の構成員については、「研究室の構成員」を参照。

## 何が勉強できるか（卒論テーマ）

**※ さらに詳しい紹介は、ここを参照してください。**

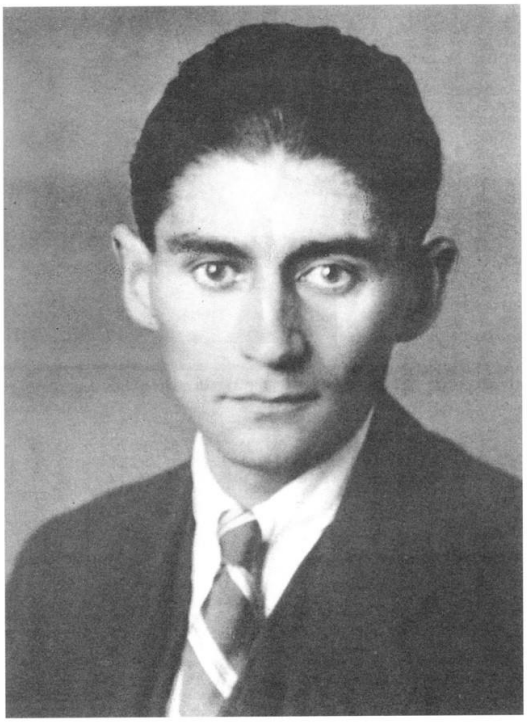
文学部の中には、ヨーロッパ系の言語・文化を扱うセクションとして、「英文学」「フランス文学」「ドイツ文学」があります。「～文学」というのは伝統的な分野名称に過ぎず、いわゆる「文学作品」だけを研究対象にするわけではありません。

特にドイツ文学専修では、狭い意味での「ドイツ文学」に限らず、むしろヨーロッパ的な視野のもとで、「ドイツ語圏」の言語・文化・社会・歴史などを幅広く研究テーマにすることを推奨しています。

以下、学生便覧に沿って、本専修で取り上げることのできるテーマを説明します。

(1) ドイツ語： 文法・語彙・歴史的変化・方言など、さまざまな角度から「ドイツ語」という言語を研究します。語学を専門とする教授のもとで、中世のドイツ語（例えば、有名な叙事詩『ニーベルンゲンの歌』）を学び、北欧を含むゲルマン語圏の文化に関心を広げる学生もいます。

(2) ドイツ文学・思想： ドイツ語で書かれた文学作品や思想的な著作を対象に、その内容や成立の経緯について研究します。「ドイツ語圏」は現在のドイツ・オーストリア・スイスに限らず、歴史的に広い範囲をカヴァーします。日本には明治期以来の「ドイツ文学・思想」研究の伝統があり、すぐれた翻訳も多いので、それらを参照しながら、作品・著作を読解し、考察を深めるのが目標です。カフカやヘッセなどの現代文学、グリム童話やミヒャエル・エンデなどの優れた児童文学も人気があります。モーツァルトやワーグナーの歌劇台本



カフカ、1923～24年

なども取り上げられます。

(3) ドイツ語圏の文化・歴史： 幅広くドイツ語圏の文化や歴史を研究します。これまでの例として、ヴィム・ヴェンダースに代表される「ドイツ映画」、クラフトワークなどの「ドイツ・ロック」、メルセデス・ベンツやフォルクスワーゲンに見る「自動車デザイン」、現代ドイツのファッション事情、ドイツ・ビールの歴史など、学生の興味に応じた多岐にわたる文化的テーマが論文で取り上げられてきました。ハプスブルク家やヒトラー時代など、歴史にスポットを当てた研究もあります。

ドイツ語やドイツ文化を考えるには、それを包み込むヨーロッパという大きなコンテクストに目を向ける必要があります。この地域に展開してきた文化の幅広さと奥行きに触れることで、多様性を尊重するグローバルな国際感覚を身につけてほしい、というのがスタッフの希望です。

## 学生の研究活動

研究室の日常風景

学生は自分の関心に応じて自由に研究対象を選択することができ、教員の支援のもと、それぞれ主体的に研究を行っています。

研究室には主要作家の作品集（日本語訳を含む）や基本的な研究文献・辞書などが備え付けられており、学生はこれらを自由に利用することができます。映画（DVD など）も豊富です。インターネットを使った情報収集のためのＰＣ環境も整備しています。

研究室は同時に、学生や教員が互いに知的な（場合によっては非＝知的な）刺激を与え合う自由な交流の場として、あるいは各種の研究会や読書会を通じた相互研鑽の場としても機能します。

学生は、ドイツ語による文献講読の力を向上させると同時に、外国人教師の指導のもとで、基本的なコミュニケーション能力を身につけるよう努めています。近年は、SAP や交換留学制度を使って学部時代に海外経験をする学生が増えており、教員もそれを支援しています。グローバルな視野を育成するという点で、英語圏への留学も推奨します。

ドイツ語に関心のある学生は、毎年２回実施される「ドイツ語技能検定試験」（１～４級）を受験して、資格取得にも励んでいます。

## 卒業後の進路

卒業生（大学院を含む）の進路は、民間企業・公務員・教員（高校国語・英語など）に分かれますが、近年、教員志望者は減り、民間か公務員がほとんどです。

公務員志望者は、３年次に公務員講座を受講し、ほぼ全員がいずれかの職種に就職しています。最近の例では、地方公務員は、宮城・山形・新潟などの県庁、東京都庁、東京 23 区、仙台・札幌・名古屋などの市役所。国家公務員は、農水省、地方法務局、地方検察庁など多岐にわたります。

民間就職は、かつては金融・保険、出版・マスコミなどが多かったのですが、最近は、情報系や製造業などへの広がりが顕著です。この数年でも製造業（住友電工、三井金属鉱業、凸版印刷、パナソニック、三菱電機など）が目立ちます。交通・インフラ系（JR 東日本、NEXCO）、マスコミ・通信（東北放送、KDDI）、旅行代理店などに加え、IT・情報関連のさまざまな企業（ほとんどが東京または仙台）への就職実績があります。

過去の結果を見る限り、文学部の場合、専門分野と民間の就職先の「相関」は全くありません。文学系は就職に不利とか社会科学系は有利といった先入見も通用しません。就職活動の成否は、学生個々人のモチベーションと意欲にかかっています。一般論として、英語力（英語能力試験のスコア）を上げるとか、短期であっても一度は海外経験をしておく、といった準備が役立つ場合もありますが、それで決まるわけではありません。ウェブを活用した情報の収集と分析、早めの業界・企業研究、キャリア支援センターを活用した就活スキルのアップ、といった地道な努力を続ければ、必ず結果は出ます。

## 研究室の構成員（2022 年 4 月現在）

嶋崎　啓（教授、研究室主任）

ナロック　ハイコ（ Narrok Heiko　教授、外国人教員）

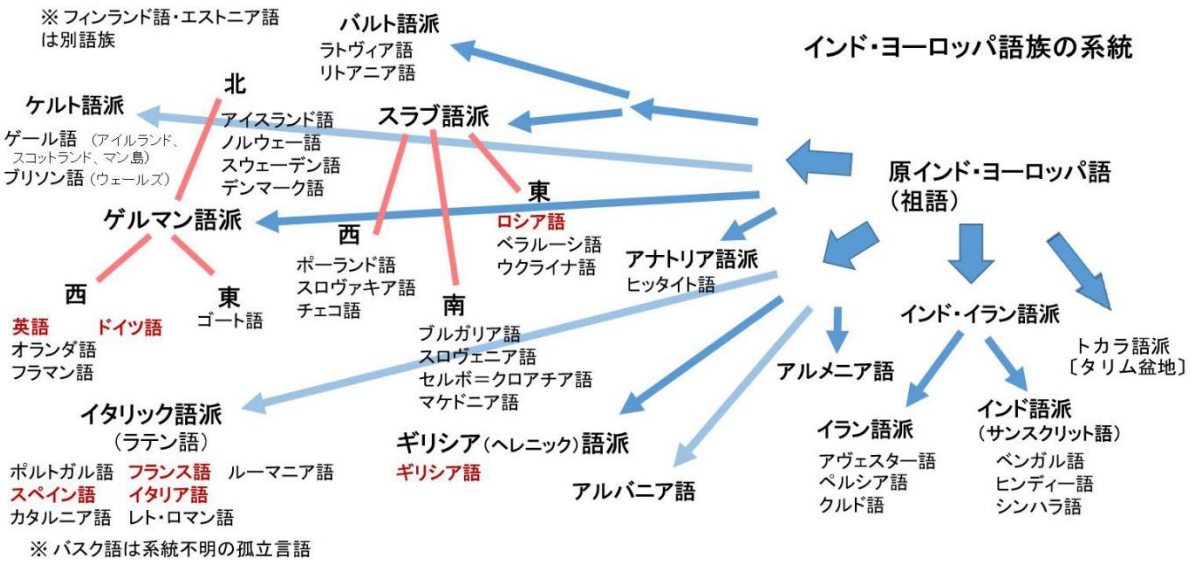
＊教員の専門等については、文学研究科ホームページを参照してください。

清水 翔太（助手）

学部学生
２年生：５名
３年生：２名
４年生：６名
学部研究生：１名

大学院学生
修士課程：３名
博士課程：３名

◆参考
ドイツ文学専修の３年次進学者数の推移
2016 年入学：5
2017 年入学：6
2018 年入学：7
2019 年入学：4




# §２　ドイツ語とドイツ語圏の国々

## ■　ドイツ語

ドイツ語という言語は、広くは「インド・ヨーロッパ語族」の中の「ゲルマン語族」に属し、さらに系統上、英語と同じ西ゲルマン語に属します。文法はよく似ていますが、英語では消えてしまった古い要素がかなり残っているので、ドイツ語を学ぶと、英語の理解も深まると言われます。

現在、ドイツ語は、中部ヨーロッパのドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、ルクセンブルクおよびその周辺の地域で使用されています。発話人口は１～1.3 億人で、日本語（1.3 億）とほぼ同じくらいです。学習者の多い言語としては、英語・フランス語・中国語・スペイン語に次ぐとされます。

※　世界の言語の発話人口（母語話者）　〔資料によって異なるので、目安程度です〕
・10 億人以上　中国語
・４～５億人　英語、スペイン語
・２～４億人　アラビア語、ヒンディー語、ベンガル語、ポルトガル語
・２億人前後　ロシア語
・１億人以上　日本語、ドイツ語、フランス語など

## ■ ドイツ語圏の国々

地域的には、いわゆる現在のドイツ（ドイツ連邦共和国）だけでなく、以下のような国々を含みます。

### ○ オーストリア共和国

オーストリアの現在の人口は 880 万で、比較的小さな国ですが、この国（地域）は、中世から 19 世紀にいたるまで、ヨーロッパ東部の強国として存在し、近代ヨーロッパの形成にも大きな役割を演じてきました。オーストリアの王家であるハプスブルク家の長い支配の時代に、特にその首都ウィーンは、文化の中心地として栄えました。

例えば現在のチェコ共和国は、かつてオーストリアに属し、そこでドイツ語が使われていた時期があります。首都プラハは、「ドイツ語文学」の中心地のひとつでした。20 世紀の重要な作家であるフランツ・カフカや、詩人のライナー・マリア・リルケは、ここで生まれています。

### ○ スイス連邦

アルプスの美しさで有名な観光国であり、世界の金融センターでもあるスイスは、人口 860 万の小国ながら、一人あたり GDP は世界トップクラスです。早くも 15 世紀末には、当時のドイツ（神聖ローマ帝国）から実質的に独立した歴史を持ちます。永世中立国として個性的な国作りを進めてきましたが、東西冷戦終結後の状況変化の中で、2002 年に国連に加盟しました（EU には非加盟）。今世紀のスイスからは、画家のパウル・クレーや、物理学者のアルバート・アインシュタインような優れた才能が輩出しています。スイスには四つの主要言語がありますが、そのうちドイツ語人口が約 65 パーセントを占めています。

### ○ ルクセンブルク大公国

フランスとドイツに挟まれ、いわゆる「ベネルクス 3 国」の一角を占める小国（人口 60 万）ですが、中世以来ドイツとの関係が深く、ルクセンブルク家はドイツ皇帝を輩出した時期が

あります。現在も世界で唯一の「大公国」として残るめずらしい国で、ルクセンブルク語、フランス語、ドイツ語を公用語とする多言語国家です。移民が多く、地理的利点もあって高い経済力を誇ります。スイスと並び、ルクセンブルクも一人あたりGDPは常に世界トップクラスです。

ルクセンブルク

## ○ ドイツ連邦共和国

今日のドイツは、アメリカ・中国・日本に次ぐ大国として世界経済をリードするとともに、平和・人権・環境・社会保障などさまざまな分野で、ヨーロッパ型の民主主義を最もよく体現する国と言えます。

現在のドイツ連邦共和国の州編成
坂井榮八郎『ドイツ史10講』，岩波書店，2003年，207頁

歴史的には、イギリスやフランスに比べ近代国家の形成で遅れをとり、いわゆる国民国家としての「ドイツ帝国」が成立したのは1871年でした。その前後から急速な産業発展を見せ、植民地政策にも乗り出します。これがヨーロッパ列強間の緊張を高め、20世紀の二度の世界大戦を引き起こす一因となったことは周知の通りです。

政治的な近代化では遅れましたが、その分ドイツは「頭でっかち」の国でした。18世紀後半から19世紀にかけて、優れた思想家や文学者が輩出し、周辺諸国にも大きな影響を与えます。いわゆるクラシック音楽がドイツ語圏を中心に花開いたのもこの時代です。また19世紀には、歴史学や言語学などの人文系学問に加え、自然科学の諸分野でもめざましい発展を見せ、

科学大国として注目を集めるようになりました。

第二次大戦後、東西に分裂していたドイツは、1990 年に再びひとつになりました。

現在のドイツは、経済・政治の両面で EU （ヨーロッパ連合）の統合を推進する中核的な存在です。ドイツは、ナチス・ドイツやホロコースト（ユダヤ人虐殺）の忌まわしい過去を教訓としつつ、ヨーロッパ統合の主軸として発展し続けています。

## ■ 私たちとドイツ

日本は明治維新前後の時期から、自らの近代化のためにヨーロッパの文化を貪欲に吸収してきました。産業技術・社会制度・法律・医学といった実際的な面だけでなく、思想や文学・芸術においてもヨーロッパから圧倒的な影響を受けてきました。

この過程でドイツは、イギリス・フランス以上に重要なお手本でした。第一次世界大戦（1914 年勃発）以前の日本の海外留学生の 4 分の 3 は、ドイツに留学しました。

森鴎外（1862-1922）

1884（明治 17）年に軍医としてドイツに留学した作家森鴎外は、明治期におけるドイツ受容を象徴する人物です。

ドイツの文学や哲学は、明治の早い時期から、日本人によって読まれ、研究されました。旧制高校では、難解なカント哲学やゲーテの文学が、教養の古典として親しまれていたそうです。本研究室は早くも大正 13（1924）年に開設されていますが、これも当時の教養主義的な風潮を反映したものと言えます。

グローバル化の激しい今日、ドイツは教養主義の時代よりはるかに身近な存在です。例えば、日本で走る外国車の中で、フォルクスヴァーゲン（VW）、メルセデス・ベンツ、BMW といったドイツ車の占める比率は圧倒的なものがあります（ヨーロッパの中では、ドイツが日本の最大の貿易相手国です）。また、ドイツのサッカー・リーグ（ブンデスリーガ）では、日本人選手も活躍しています。

アメリカと中国が世界の覇権を争っているように見られがちですが、EU・ヨーロッパは世界の政治・経済の第三の中核地域であり、私たちの生活とも直接・間接に深いつながりを持

っています。その歴史的・文化的影響力の大きさは言うまでもありません。もちろん、ただ過去の遺産を眺めるというのではなく、相互に関連しあう世界がこれからどうなってゆくのかを、アメリカ・中国だけではない、より広い視野・射程のもとで考えてゆくために、ヨーロッパに目を向けることには意義があります。「ドイツ」はその場合の最も重要な焦点ですが、ドイツについて学ぶことは、同時に「ヨーロッパ的なもの」の知的探究でもあることを念頭に置くことが大事です。

# §３　ドイツ文学専修で勉強できること

## ■ ドイツ語を学び、研究する

### ＡＢＣからはじめる

まだドイツ語に触れたことのない方もいると思います。ドイツ文学専修では、ドイツ語を既に学習していることを必須条件とはしません。２年生から学習を始めれば大丈夫す。

ドイツ語は、既に英語に接している皆さんには、比較的学びやすい言語です。全学教育の「ドイツ語」や、２年生向けに開かれる授業を活用してください。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ　ÄÖÜ ß

ドイツ語のアルファベットは英語と同じ。ただし４個の特殊文字があります。

(例：Märchen = メルヘン)

東北大学には、ネイティヴの（ドイツ語を母語とする）ドイツ語教員もいらっしゃいます。ぜひ本物の発音にも触れてみてください。

### 専門課程での多様なドイツ語

ドイツ文学専修を選択すると、２年生から専門の授業が始まります。そこでは、いわゆる語学とは違った形で、本格的にドイツ語と接することになります。文学作品を読んだり、専門研究に関係のある文献を調べたり、あるいはネットを通じて日常的なドイツ語に接したりする機会が増えます。またドイツ人の先生のもとで、より高度な会話の練習も行われるでしょう。

そんなことについていけるだろうか、と心配に思う必要はありません。外国語の修得が容易でないことはよくわかっていますから、皆さんの進度に合わせて、少しずつドイツ語に慣れていってもらうよう、教える側でも配慮しています。

### ドイツ語の研究

ドイツ語の勉強をはじめてみて、言葉としてのドイツ語に興味を持った人は、その興味を研究テーマに結びつけてゆくことができます。現代のドイツ語を、例えば英語などと比較してみることもできますし、言語学的な視点から、ドイツ語の特徴を調べることも面白いでしょう。古い中世のドイツ語（中高ドイツ語など）も重要な研究領域です。

現在ドイツ文学専修に所属する先生方は、ドイツ語学、あるいは言語学そのものに深い造詣を持っておられるので、高度な専門的指導を受けることができます。

## 資格取得

４年生を終えるころには、辞書を使えばひととおりドイツ語の文章が読めて、また日常的な会話程度はできるようになるでしょう。「英検」と同様の「ドイツ語技能検定試験」が年２回行われています。４級から１級までありますが、学部生のレヴェルで３級までは十分に取得できます。希望する人には、こうした資格試験の受け方なども指導します。

※「独検」のホームページ　http://www.dokken.or.jp/about/index.html

## 語学研修

可能であれば、学生時代に一度外国に出かけてみるとよいでしょう。ドイツ語圏の国々は、中世以来の文化遺産を持つと同時に、スイスをはじめ、豊かな自然に恵まれています。有名なノイシュヴァンシュタイン城を終点とするドイツ南部の旅行ルート（ロマンティック街道）は、日本人旅行者の定番コースになっています。また、ウィーンのような古都では、クラシック音楽や美術の伝統を味わい、ベルリンやミュンヘンなどの大都市では、映画・演劇・大衆文化の先進的な面に接することもできます。

東北大学は海外の多くの大学と交流協定があり、短期・長期の海外研修を利用することができます。短期では、SAP（Student Abroad Program）や FL（Faculty Led）があります。ドイツ語圏に限らず、海外を経験するという点で英語圏への留学も意義があります。また半年以上の長期の交換留学では、ハイデルベルク、ウィーンなどドイツ語圏の有力大学で学ぶチャンスが得られます。近年も、ドイツ文学専修の学部生が、何人も奨学金を受給して留学しています。

ドイツ語圏では、現地の大学や語学学校が主催する短期研修のプログラムもたくさん用意されおり、多くの日本人学生が学んでいます。勉強を兼ねて旅をする機会として利用できるでしょう。

ノイシュヴァンシュタイン城　（wiki Softeis）

## ■ ドイツ文化を研究する

「研究」と言うとものものしく聞こえますが、要するに、興味のわくテーマを見つけ、それに関係する本を読んだり、資料を調べたり、現地を見学したりして、自らの知識と教養を深め、最後にある程度のまとまった報告（卒論・卒研）を作成する、ということです。

伝統的に、本専修における研究の中心は小説・戯曲・詩などの文学作品ですが、思想的著作や映画、音楽作品などを文化史的背景のもとで研究する人も少なくありません。ご自分の興味のわくテーマを探して下さい。

なお、過去の卒業論文は、研究室に所蔵していますので、ぜひ参考にしてください。

### 文学

私たちにもなじみ深いのは、19 世紀に収集された『グリム童話』や、エーリヒ・ケストナーの『エーミールと探偵たち』『飛ぶ教室』、ミヒャエル・エンデの『モモ』『はてしない物語』など、児童文学の秀作でしょう。このほかにも独特の幻想性と「物語」性を含む読んで面白い作品が、ドイツ文学にはたくさんあります。ヘルマン・ヘッセのような内省的な文学や、ギュンター・グラスら第二次世界大戦後の作家も根強い人気を保っています。

また、ゲーテの『ファウスト』を筆頭に、クライスト、ビューヒナー、ブレヒトの諸作品など個性的な戯曲も多く書かれています。演劇に関しては、作品を読む以外に、実際の舞台について考察するという側面もあります。ドイツ語圏の作品が日本の劇団によって上演される機会も少なくありません。もちろん現地に出かけて舞台を見ることもできます。

ドイツ演劇に限りませんが、文学部の中で演劇や音楽劇について研究するには、文学系のいずれかの専修に属するのが順当でしょう。なお舞台芸術には、バレーやダンスのような身体芸術と呼ぶべきジャンルも含まれます。ドイツはコンテンポラリー・ダンスの中心地でもあり、ピナ・バウシュ舞踊団の活躍は日本でもよく知られています。

### 映画

1910 年代から 20 年代にかけての映画の草創期に、ドイツ映画は高い水準の成果をあげています。ドイツ文化の中には、特に 19 世紀のロマン派以来、幻想的なものや無意識的なものに対する強い嗜好があるのですが、それが映画という新しい表現手段を得て、堰を切ったように表に出てきた観があります。20 年代には、それが SF 的な未来社会のイメージにまで発展し、フリッツ・ラング監督の『メトロポリス』のような作品を生みます。

戦後一時の沈滞期を経て、1970 年代以降新しい映画作家が登場し、ニュー・ジャーマン・シネマと呼ばれる新たな隆盛期を形づくりました。ヴィム・ヴェンダース監督の『ベルリン・天使の詩』（1987）は、ドイツ映画としてはめずらしく、日本でも大ヒットしました。21 世紀に入ると、『グッバイ・レーニン！』（2003）、『善き人のためのソナタ』（2006）、『愛を読む人』（2008）など、ナチスや東西冷戦の時代をモチーフにした秀作が世界的評価を受けています。

## 芸術と思想

ハプスブルク帝国の首都ウィーンは、ヨーロッパ芸術のセンターであり、特に、モーツァルトやベートーヴェンを生んだ 18 世紀～19 世紀の転換期と、マーラーや新ウィーン楽派が活躍した 19～20 世紀の転換期が大きな隆盛期であったことは、よく知られています。

作曲家の生涯や楽曲そのものも研究対象となりえますが、特にモーツァルトのオペラやヴァーグナーの楽劇のように、その作品が「ドイツ語で書かれたテキスト」という面から研究されることもあります。E.T.A. ホフマンやホーフマンスタールのように音楽と深く関わった文学者も少なくありません。

**モーツァルト**（1756-91）

ドイツ語圏は、16 世紀にルターが宗教改革を開始した地であり、プロテスタント思想の伝統があります。また 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけては、カントをはじめとした「ドイツ観念論」と呼ばれる一群の哲学者が輩出します。19 世紀から 20 世紀にかけては、マルクス、ニーチェ、フロイト、更にウィトゲンシュタイン、ハイデガーといったその後に大きな影響を及ぼす思想家が陸続と登場します。哲学や社会学を学ぶ人たちの多くが、現在でもドイツ語を勉強するのは、こうした思想上の古典を読む必要があるからです。ニーチェやフロイトの著作は、ドイツ文学の分野でもよく読まれ、研究されています。

## 社会と歴史

もっと視野を広げて、現在のドイツ語圏の国々の歴史や現代社会の特徴についてはば広く勉強することも、重要なテーマであると言えます　（ただし歴史学的な実証研究を志す人には、「西洋史」などの専修を専攻されることをおすすめします）。

ドイツ（連邦共和国）は、日本同様、第二次世界大戦という重い過去を抱えています（ヨーロッパでの戦争は、1939～45 年）。ナチス時代の戦争と生活、ユダヤ人虐殺、戦後における過去への対処、これらはいまなお真剣に取り組み続けるべきテーマです。東西分断から 1990 年の再統合にいたる戦後ドイツの軌跡の中で、ドイツ人たちがどういう生き方をしてきたか、社会や文化の観点から考察する研究も盛んに行われています。

今日のドイツは、EU 統合の中核国です。「ヨーロッパ化してゆくドイツ」の現状を言語や文化という観点から考えることは、グローバル化する世界をより深く理解する上で重要です。

勤勉なドイツ人はしばしば日本人と比較して論じられますが、本当に日本人とドイツ人は似ているのでしょうか。ドイツと言えばサッカー、自動車、それにビールとソーセージが思い浮かびます。産業技術や食生活に見る国民性といった観点から、その文化を考えてみることもできます。

ギムナジウムというドイツの中等学校の名前は聞いたことがおありかもしれません。日本とドイツの教育制度を比較してみると、子供の育成についての考え方に大きな違いのあることがわかります。シュタイナー教育のような個性的な実践も知られています。

こうした様々なテーマの中から自分の興味のわくものを見つけ、勉強してみることができます。生活や社会の研究の場合には、ドイツ現地の新しい情報を手に入れることも必要になってきますが、今日ではインターネットを通じて多様な情報を容易に手に入れることができるようになりました。ドイツ・ヨーロッパ研究を、ただの知的関心からではなく、今後グローバル社会の中でキャリア形成してゆくための知的準備として行うことも、一つの選択肢となります。

## ■ 補足（日本語文献の活用）

以上述べたように、ドイツ文学専修での研究対象は多岐にわたり、皆さんは自由にテーマを選んで勉強してゆくことができます。もちろん、現代の日本人にとってヨーロッパは身近とは言えませんから、漠然としたイメージしか持てないのが実状でしょう。まずはドイツ語を履修し、概論で入門的な話しを聴く中で、このとても興味深い歴史と文化を持つ地域のことに触れてみてほしいと思います。

言語と文化の研究がメインである以上、ドイツ語を学ぶことは必要です。とはいえ、学部の段階でドイツ語を駆使した専門研究を行うことは難しいのが実情です。そのことは教員もよく承知しています。幸い、ドイツ語圏の文学・思想・歴史・社会などに関しては、数多くの優れた日本語の翻訳や研究文献があります。学部では、これらを使いつつ、この地域の文化について知識を増やし、自分なりの関心を発展させていかれることを期待しています。